

学校法人 岡辻学園 山手幼稚園

2022年度 学校評価

建学の精神

幼児への教育は、幼児の健全な成長発達に欠くことのできないものであり、一般社会人すべての責務である。特に就学前の幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担う為、適当な環境を与え、人と関わる力や思考力、感性などを育み、人間として、社会と関わる人として、生きていくための基礎を培うものである。今回、これらの趣旨を基に吹田市山手町に於いて地域に幼児教育の施設を設け、人間性豊かな社会人を育てるために貢献したい。

1. 本園の教育目標

つよいからだとあきらめないで頑張る心

めざす子ども像

- ・心身ともにたくましくのびのびと遊べる子ども
- ・人の話をしっかり聞き、自分の思いも伝えられる子ども
- ・いろいろな事に興味関心を持ち、最後まであきらめないで取り組む子ども
- ・自分の事を大切にし、まわりの人たちにも思いやりの持てる子ども

教育方針

- ・子どもの中に潜在している可能性を引き出し発展させ、バランスのとれた人格を育成する。
- ・「感性」「体力」「知性」を3本柱として、「規範意識の芽生え」を培う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①登園から降園まで担任がクラスの子どもたちと共に行動できるようにする。
- ②遊びに集中できる環境をつくる遊びに意欲をもって集中できる環境をつくる。
- ③通園バスの先発・後発があるので、その時差の対応をしっかりと行う。
 - ・バスの時間に合わせたの体操（朝礼）をどうするか
- ④教育課程を全職員で見直しを行い、年間計画を全体のものとする。
 - ・職員数が多いので全員で話し合うというのがなかなか難しかった。
- ⑤保育室の環境を見直し、子どもが主体的に遊び込める環境づくりに努める。
- ⑥新任指導を計画的に行う。
 - ・毎年数名の新規採用教員を迎えているが、人数が多いため、系統立てての研修が部分的にしか行っていない状況があった。

⑦行事等にアンケートをとり、保護者の思いを知る。

・行事については、毎回職員間で反省や見直しを行っている。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 登園から降園まで担任がクラスの子どもたちと共に行動できるようにする	B	・来年度に向けて、通園バスの1便・2便を考慮して、班編成を行い、クラス分けをする準備を行った。
(2) 遊びに集中できる環境をつくる	B	・室内の遊具を増やし、室内でも子どもたちが興味を持って遊びに取り組む環境を作った。
(3) 通園バスの先発・後発があるので、その時差の対応をしっかりと行う。	B	・バスの時間に合わせたの体操(朝礼)をどうするかという課題があったが、1班・2班ごとに曜日を変更し、時間も全員が揃う時間に行うようにした。全クラスそろっての体操の時間とはならないが、クラスの子どもたちは全員揃って行えるので、遅いバスで登園した子どもたちも、遅れてきたという雰囲気にはならず一緒に楽しめるようになった。
(4) 保育室を見直し、主体的に遊び込める環境を作る	B	子どもたちの室内での動線等も吟味し、室内での遊びを充実した。
(5) 新任指導を計画的に行う	B	府の教育センターで行われている新任研修に今年度は、新任全員が数回参加させることが出来た。
(6) 行事等にアンケートをとり保護者の思いを知る	A	昨年度に継続して運動会・作品展・生活発表会などの行事についてアンケート調査を行い、いろいろな保護者の思いを知ることが出来今後の活動に生かすことが出来た。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>昨年度まで、クラスの子どもたちが全員揃っていなくても、朝礼を始め、なんとなく保育がスタートしているという流れがあったが、今年度は全員揃って出欠確認を行い。保育がスタートするという流れが出来てきた。今年度は、園バスでの園児置き去り事故が全国のあちこちの園で発生し、出欠確認が重要視された一年でもあったので、改めて出欠確認の重要性を全職員で再確認し、徹底するようにした。</p> <p>しかし、同じクラスに早バス、遅バスで時差をつけて登園してくる子どもたちがいるので、全員が揃うのを待っていると、出欠確認の時間が遅くなることや、主となる保育の活動がどのクラスも同じ時間になり、遊戯室や園庭などの場所の確保が難しい。来年度に向けては、班ごとにクラス編成を行い、同じクラスの子どもたちが同じバスに乗車し、同じ時間に登降園するという流れを作っていけるよう、保護者にアンケートなどをとり取り組んだ。</p>

◎ 「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
個々の子どもに寄り添った保育を行う	個々の子どもについての情報交流を行い。肯定的なかかわりを行う。
教員の質の向上・研修の充実	新任研修にとどまらず、他の職員にも積極的に研修に参加できる体制を作りたい。
保育内容の充実	通年の意識にとらわれず、子どもにとって何が必要で何を大事にするかという視点で保育内容の充実に努めたい。
保育時間に時差をつける	<p>保護者にアンケートを取り、早めに登園して早くに降園する保育時間が良いか、少し遅めに登園して、少し遅く降園する保育時間が良いかの希望を取り、幼稚園全体を1班2班に分け、2部制にする。</p> <p>その場合、あずかり保育を利用している子どもたちをどうするかなど、詳細について検討する。</p>

6. 学校関係者の評価

特に、指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。